

不登校支援・教育支援教室・教育相談・就学相談
通級指導相談・青少年相談・青少年居場所

綾瀬市総合教育支援センター 7月開設へ

就学前児童～39歳までの青少年とその家族を総合的に切れ目なく支援できる体制を目指し、上記の機能を集約し連携する施設です。

従来の教育支援教室（ルピナス）がここに移転し、4月開校予定。あわせて不登校やひきこもりなどへの支援体制が7月以降充実しますので、期待しています。

しかし、総床面積が1433㎡の当初計画から、用地取得の関係から555㎡と手狭な施設となっているので、不便をおかけしそうです。お気づきの点があれば教えてください。



また、綾瀬市深谷中4-2-1に県の「綾瀬児童相談所」も昨年秋に開所。ご活用ください。

4月

こども誰でも通園制度 公立保育所で開始！

保育現場の
苦悩置き
去りのまま

在宅で子育てすることへの不安や孤立感解消を掲げた「こども誰でも通園制度」が始まります。しかし、保育の質や現場の不安を軽視した今の制度では保育する側の負担増だけでなく、預

けられる子どもの安全が守られないとの危惧の声があります。保育環境や働く労働条件を大きく改善させる取組を行い、一時預かり事業の拡充に舵を切るべきではないでしょうか。

実技

中学校プール授業廃止・小学校プール授業民間プール利用進む 民間プール利用経費は当初試算の2倍に

教育委員会は学校プールの老朽化を理由にプールを改修せず、民間プールの利用を進め、新年度からは小学校5校で実施予定です。

当初の試算では10校で50年間実施すると約9億円の経費としていました。しかし、

この間の実績から2倍以上（約20億円）になることを指摘すると、市も認めました。あまりにズサンです。

また、学校プールは



災害時には、トイレに流す水としても、ろ過して生活水とすることも想定される重要な役割を持っています。

学校プールを残していくことは必要ではないでしょうか。

みなさんのご意見をお寄せください。

2025年9月～10月 オスプレイが同時に8機も厚木基地に飛来(↓写真)

欠陥機 オスプレイの危険性 綾瀬市は調査研究を拒否

厚木基地はオスプレイの整備拠点としてだけでなく、訓練の中継基地としても利用されているようで、頻繁な飛来が目撃されています。

オスプレイは、2022年からだけでも4件の墜落死亡事故（死者は20名、負傷者も20名）、緊急着陸10数回にもなる欠陥機です。

そのことは昨年9月にアメリカ議会調査局の報告書（V-22オスプレイ：その状況と課題）でも指摘され、これ

らの事故が現時点では修復できない部品などの構造的な問題などで起きていることに言及しています。

私たちは、市としてこの報告書を研究し、オスプレイの危険性を認識することを求めましたが、市は「市としては行わない。国に確認していく」と述べるだけでした。市民の安全を真剣に守る気はないようです。



▲実際に墜落したときの映像

国保 また値上げ

2026年度から公的医療保険料に上乗せ徴収する「子ども・子育て支援金」の負担額は、会社員などが加入する被用者保険と比べると、年金生活者や非正規雇用などが加入する国民健康保険税では、同じ年収でも2倍以上の負担になる場合も！

そもそも健康保険税への上乗せは、行うべきではありません。市は、今後さらに30%程度の値上げを示唆しています。

国が財政支援を行い、高すぎる保険税を引き下げることが必要です。

子ども支援を
口実に国が
増税

「最低賃金の改善と
中小企業支援の拡
充を求める」陳情
が、自民系会派・
公明党・参政党の
反対で否決されて
しまいました。

びっくりに
す



「私学助成の拡充を
求める」陳情は、
参政党だけが反対。
公教育を支える私
学の重要な役割を
理解していないよ
うで、驚きました。